

# 兵庫県 英語授業研究サークル

---

発表者：小笠原 良浩

所属：兵庫県立相生高等学校 英語科

採択枠：普及

関係者人数：22名

教科：英語

関係学校数：18校

学校種：中・高校

担当委員：野中委員

地域：兵庫県

担当MRI：吉村 春美

# 活動目標

---

## ①作成したコンテンツの効果の検証

昨年作成したプロダクション活動用コンテンツを各都道府県に紹介  
速読直解用コンテンツをHP上にて提供

## ②アクション・リサーチの手法を継続した新たな課題と改善方法の模索

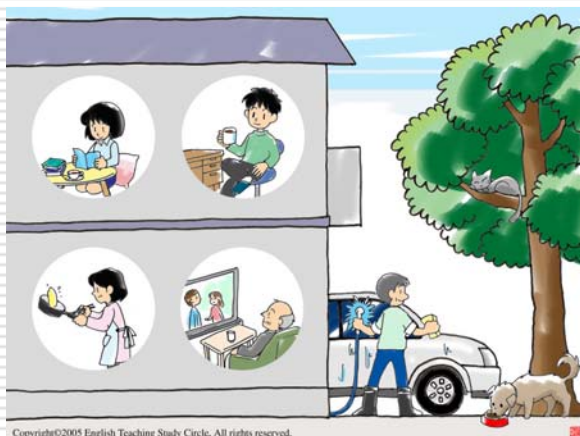
個別音源機器を利用したリスニング活動  
電子黒板を利用した授業

## ③研究成果の蓄積と普及、共有化

月1回のグループ研修  
各種研究大会、研修会での実践発表

---

## 活動内容①（作成したコンテンツの検証－1）



- 絵が分かりやすい。
- 楽しくて、覚えやすい。
- 絵を見て授業が出来るので、イメージが付きやすい。
- どうやって表現したらいいのか、とまどった。
- 電子黒板のペン機能も使ってほしかった。

## 活動内容①(作成したコンテンツの検証-2)

---

個別音源機器  
を利用した  
音読練習



## 活動内容②ー1 (A・Rによる授業改善)

---

- 電子黒板(3名)
  - プロジェクター(5名)
  - 個別音源(シリコン・オーディオ)(2名)
  - ポータブルビデオカメラ(1名)
  - プロダクション活動用デジタルコンテンツ(10名)
-

## 活動内容②ー2(研修会での講習)

---

- 第2回研修会(7月) 著作権と教育活動
  - 第3回研修会(7月) ポータブルビデオカメラを使った授業記録
  - 第4回研修会(8月) 個別音源機器用データ圧縮・格納方法
  - 第5回研修会(9月) 電子黒板を使った授業
  - 第6回研修会(10月) TV会議のノウハウ
  - 第7回研修会(11月) 野中委員からの指導助言
-

# 第6回研修会(10月) TV会議のノウハウ

## 兵庫教育大学 成田 滋 教授

---



## 活動内容③ー1(普及:紹介・実践)

---

- H17年度兵庫県中学校英語教員集中研修(約100名)
  - 兵庫県高等学校教育研究会英語部会総会(約200名)
  - 兵庫県立教育研修所:現職教員一般研修講座
    - 「デジタル機器を活用した授業実践講座」(17名)
    - 「英語教員のためのスキルアップ講座」(32名)
  - 大学教職課程受講者対象スピーキング・プロダクション用デジタルコンテンツ授業案作成指導(8名)
  - 昨年作成したコンテンツのCD作成、配布
  - 速読直解活動支援ツール使用方法の配布
-



## 活動内容③-2(普及:研究発表)

---

- LET関西支部(約50名)
  - 全国英語教育学会(約100名)
  - 関西英語教育学会(約100名)
  - 英語授業研究学会関西支部(約100名)
  - 日本教育工学会(20名)
  - 英語教育達人セミナー(約150名)
  - 月刊「兵庫教育」
  - 兵庫県高英研平成17年度研究大会(予定)
-

# 目標達成度と活動成果

---

## ①作成したコンテンツの効果の検証

- プロダクション活動用コンテンツ
- 速読直解活動支援ツール

### <評価>

・プロダクション活動用コンテンツを使用する際、実際のコンテンツに到達するまで何度かクリックする必要があり、やや使いにくいというフィードバックを得た。コンテンツについては、場面ごとに絵があって英文を作りやすいという評価をいただいているので、現在ユーザーフレンドリーな仕様にすべく、ウェブデザインを改良中である。

・速読直解活動支援ツールは、プログラムを作る際、エディターを使用する必要があり、やや使いにくいのでエクセルを使用してプログラムできるように改良中である。

---

# 目標達成度と活動成果

---

## ②アクション・リサーチの手法を継続した新たな課題と改善方法の模索

- スマートボードを活用したリーディング授業
- 個別音源と電子ボードを活用した授業

### <評価>

・スマートボードや電子ボードの活用によって生徒はより積極的に授業に取り組むようになった。今後ハード面で学校現場の整備が臨まれる。

・個別音源機器の活用により、個人のレベルに合わせたリスニング、スピーキング指導が可能となった。しかし機器はまだ高価であり、普及の妨げとなっている。→携帯MP3playerは使用できないか？

---

# 目標達成度と活動成果

---

## ②アクション・リサーチの手法を継続した新たな課題と改善方法の模索

### □ 小型カメラを用いた授業観察方法

#### <評価>

#### ・小型カメラの活用について

(よい点) 生徒の個別活動を記録するには準備等手軽でよい。

インタビューテストの記録にも使えそう。

PCに取り込みやすい。

(改善点) 音声がクリアに入りにくい。

雑音や画面が乱れることがある。

液晶画面で確認しながら録画できない

教師の視点を確認するという点は以上の改善点から難しかった。

---

# 目標達成度と活動成果

---

## ③研究成果の蓄積と普及、共有化

- 各種研究会での研究実践発表
- プロダクション活動用コンテンツの配布
- ホームページの更新
- 中英研・高英研との連携

### <評価>

- ・発表を通してより多くの先生方にICTを活用した授業実践を紹介した。また新規メンバーの加入があった。(9名)
  - ・CD-ROMの配布を通して、他府県、他校種の先生方へコンテンツを紹介することができた。(近畿中・高・大50枚、DM100枚、研究大会等60枚)→[フィードバック](#)
  - ・HPの更新については人手不足でなかなか進んでいないのが現状である。
  - ・中英研、高英研との連携については、2月の高英研研究会での発表を足がかりとして参入を図る。
-

# 総括(まとめ)

---

## □ 蓄積されたノウハウ・知見

- ・研究会等でのICT授業実践の紹介を通して、少しずつICTに対する理解を深める必要がある。
- ・悉皆研修を通して、ICTの活用を促進するのが効果的である。

## □ 残された課題

- ・広報活動によってHPへのアクセス向上を図る。
- ・よりユーザーフレンドリーなHPを作成する。
- ・コンテンツDL後のフィードバックを得られるようにする。
- ・メンバーのIT活用能力の向上を図る。

## □ 次年度以降の方向性

- ・次年度も月一回のペースで研修会を持つ。
  - ・県の教育研究会情報教育部会と連携してICTの普及に努める。
-